

日	々	の	
暮	ら	し	に

香川芳子

女子栄養大学学長

昨年のブータン国王夫妻の来日で、「国民総幸福度」を基盤とする国政に共感したかたも多いのではないのでしょうか。日本では東京・荒川区のとり組みに事例があります。「真の豊かさにつながる区民の幸福度の向上こそが区政の役割である」という理念の下、GAH（グロス・アラカワ・ハッピーネスⅡ荒川区民総幸福度）の向上のために、外部有識者も交えて課題を見だし、具体策を講じています。幸福度調査では、幸せと「やや思う」「大いに思う」区民は合わせて76%という結果が出ています。

働き盛り世代に生活習慣病が多いことから、区内の飲食店に呼びかけ、女子栄養大学と共同で健康に配慮した「あらかわ満点メニュー」を提供するようになりました。高齢者が地域で健康で元気に暮らせるように、週に数回は小学校で給食をとって、子どもと触れ合う場を持つこともできるようになりました。子どもの幸せのための施策では、貧困や虐待問題の解決、保育園の充実など具体的な支援を行なっています。暮らしに根ざした温かい地域社会の実現が、人々の真の幸せの基盤になります。

真の豊かさの指標は
経済の発展だけではなく
人々の幸福度にあります

